

2016年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準3	教員・教員組織【自己評定 A】
点検・評価項目(1)	3-1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。
評価の視点	教員に求める能力・資質等の明確化
	教員構成の明確化
	教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化
点検・評価項目(2)	3-2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。
評価の視点	編制方針に沿った教員組織の整備
	授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備
点検・評価項目(3)	3-3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。
評価の視点	教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化
	規程等に従った適切な教員人事
点検・評価項目(4)	3-4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。
評価の視点	教員の教育研究活動等の評価の実施
	教育活動・研究活動等の業績の公表状況
	ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況と有効性
点検・評価項目(5)	3-5 教員組織の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II【点検・評価項目ごとの現状説明】

3-1	<p>文学部は、日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科の五学科から成る学部である。文学部の教育研究上の目的は、人文諸科学に関する学識を修めることを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やありかたを考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することである。この目的を達成するための教員組織の編制方針は、以下のとおりである。</p> <p>変化流動する今日の世界と日本にあって、現代的課題に配慮しつつ、文学部の教育研究上の目的実現のため、文学部五学科（日本文学科・中国学科・英米文学科・教育学科・書道学科）各々の専門分野に照らし、教員の専門性・年齢構成・性別・国籍等を勘案しつつ、編制する。</p> <p>組織的な教育の推進体制については、まず各学科において学科主任とカリキュラム委員が連携し、ついで主任会議、教務委員会、FD委員会を中心に5学科間の調整を図り、それぞれが役割分担して責任の所在を明確にするとともに、すべて学部教授会に報告し承認を得ている。</p>
3-2	<p>文学部は5学科から構成される。教員組織は学部・学科の教育研究上の目的を達成するために編制され、専門教育・基礎教育・教養教育（全学共通科目）・外国語教育等を担当する専任教員、兼任教員を置いている。文学部の教員構成は以下のとおりである。</p> <p>専任教員（特任教員を含む）は86人（教授46人、准教授24人、講師14人、助教2人）で、大学設置基準によって定められた教員数を満たし、教員組織の編制方針に整合した編制が行われている。兼任教員は191人、専兼比率（専門教育科目）91.4%、専任教員1人当たりの学生数28.6人、年齢構成比率は61歳以上39.5%、60～51歳27.9%、50～41歳22.1%、40～31歳10.5%、30歳以下0%、女性教員比率20.9%、外国人教員比率2.3%である(d1-表2、B3-26 d2-表10、表5、表4)。</p> <p>授業科目と担当教員の適合性については、各学科の学科協議会で点検が行われ、学部教授会に報告される（B3-22）。毎年度の自己点検・評価活動においても検証が行われる（B3-21）。</p>
3-3	<p>教員の募集・採用・昇格については、全学の基準である大東文化大学規程の教員選考基準に準拠して、文学部および各学科が定める内規に則って適切に行われている（A3-4-1）。</p> <p>採用と昇格の手続きについては、当該教員の所属学科での協議に基づき、学科主任が教授会に選考委員会の設置を報告し承認を得る。選考委員会は、専任教員の採用・昇格または兼任教員の採用の人事別に委員の構成が定められている。委員会は履歴書・業績等に基づいて審査を行い、その結果は教授会に報告され、教授会出席者の3分の2以上の同意を得て採用と昇格人事は承認される。募集は全学の方針に従って公募制をとっている。</p> <p>選考にあたっては、科目編成および年齢構成において適正であること、当該学科専任教員の出身校比において偏りが無いこと、を考慮する。</p> <p>以上、教員の募集・採用・昇格は定められた規程と手続きに則って、適切に行われている。</p>
3-	<p>教育活動については、毎年度、「学生による授業評価アンケート」を実施し、評価を行っている（B3-12）。また、文学部FD</p>

4	委員会が組織され、毎年、数回の研究会・報告会を開催しているが、これは授業改善・教育力向上をめざしたものであり、社会貢献や管理業務等に関する研修会は実施していない。研究活動については、昇格審査の際の重要資料としている。
3-5	認証評価における基準、学部・学科の「理念・目的」に基づくカリキュラムとの対応、「教職実践演習」等の文科省の方針、時代の要請に見合うグローバルな人材の育成、等、多角的な方面から検証し、学部教授会、学科協議会の公正な手続きによって実施されている。

【効果が上がっている事項】

3-1	教育の質を高めるための教員組織編成について検討していく必要がある。
3-2	
3-3	
3-4	教育活動・研究活動の実績を、各学会（学科主体）の刊行雑誌等において公開し、大東文化大学ホームページにおける「教員情報」においても公開している。FD委員会の活動が積極性を増している。FD委員会活動の報告や反省等を実施している。
3-5	

【改善すべき事項】

3-1	
3-2	
3-3	
3-4	FD活動の活性化が必要である。
3-5	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A3-2	教員選考基準
A3-3	大東文化大学学則 《既出》A1-1
A3-4-1	大東文化大学文学部教員選考規程 日本文学科教員選考基準に関する内規 日本文学科（東松山英語部会・外国語部会）教員選考基準に関する内規 中国学科教員選考内規 英米文学科教員選考基準（内規） 英米文学科内規の適用範囲と業績の内容に関する細則 教育学科教員の採用、昇任に関する内規 書道学科教員選考内規
A3-6	大東文化大学客員教員任用基準
A3-7	大東文化大学助教規程
A3-12	専任教員の教育・研究業績（CD-R）
B3-1	大東文化大学専任教員就業規則
B3-2	大東文化大学特任教員就業規則
B3-12	学生による授業評価アンケートと大学教育 2015年度
B3-21	大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） <a href="http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html">http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html</a> 《既出》B1-16
B3-22	2015年度第4回文学部教授会議事録
B3-26	大学データ集 《既出》B1-22
<p>&lt;大学基礎データ&gt; d1-表2 全学の教員組織</p>	
【追加資料】	

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価				
		2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～)	3-4FD活動を活発化させる。 FD活動の分析と対策について、教授会において報告され、FD活動報告書が作			A		

2018)		成される。				
14年度 目標	3-4FD活動を活発化させる。	FD活動の分析と対策について、教授会 において報告され、FD活動報告書が作 成される。	→ A			
15年度 目標	3-4FD活動を活発化させる。	FD活動の分析と対策について、教授会 において報告され、FD活動報告書が作 成される。		A		
16年度 目標	3-4FD活動を活発化させる。	FD活動の分析と対策について、教授会 において報告され、FD活動報告書が作 成される。			A	